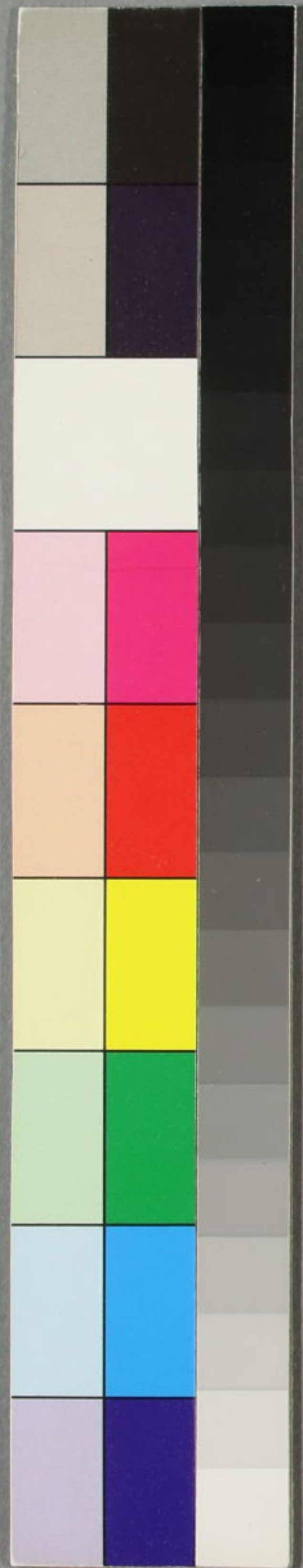


義仲勳功圖會

六

13
3380
6



13
3380
6

好花堂主人著編
有阪蹄齋繡像



義仲勳功圖會

京攝書林

積玉圃
宝珠軒



木曾義仲勳功圖會後編總目錄

卷之壹

- 一筑摩平川合戦
- 一杵淵重光信長主仇戦死
- 一木曾勢夜討通盛敗軍
- 一義仲与頼朝確執
- 一平家北國征伐
- 一北國任人等敗走
- 一齊明与射水争論
- 一富部家俊被討西七郎
- 一資永敗軍已女武勇
- 一梶酒音謀計使資永氣死
- 一中定隆寛美法印变死
- 一西源家和平赴清水冠者鎌倉
- 一齊明反忠燧城陷落
- 一般若野合戦兼平武勇
- 一義仲手配并垣生八幡願書

卷之貳

大正十年八月廿九日寄
本大學出版部贈

功の圖會後

- 一 破並山合戰平家敗軍
- 一 志保山合戰行家敗北
- 一 齊明法師 兵瀨尾父子被為虜

卷之三

- 一 一條原合戰齊藤實盛戰死
- 一 山門大衆議論
- 一 法皇暗渡御山門
- 一 法皇還都 兵義仲行家受領
- 一 西之宮御受禪 兵行家知安等譏奏義仲
- 一 備中水嶋合戰
- 一 瀨尾父子反忠 兵戰死
- 一 木曾登山 兵瀨田合戰
- 一 平家都落

卷之四

- 一 北軍洛中乱妨
- 一 義仲燒伐法住寺殿
- 一 清水冠者以海野入道諫義仲
- 一 義仲將軍宣下 兵諸方手配
- 一 宇治合戰 兵根井大彌太退武勇
- 一 義仲出陣 兵松殿之姫愁傷
- 一 義經至臣守護仙洞御所

卷之五

- 一 川原合戰望月太郎陣没
- 一 木曾方諸勇士戰死

一塩谷三郎討八島行忠

一巴女根井以下大惱鎌倉勢

一根井戦死 并 畠山重忠祖巴女

一巴女勇力討内田三郎

一今井兼平勇戦方等三郎戦死

一東北西軍大戦栗津野

一義仲中流箭 并 兼平勇戦陣没

一樋口兼光成虜被為誅

一清水冠者落命 并 京鎌倉平定

總目録畢

木曾義仲勲功圖會後編卷之壹

筑摩川合戦條

浪速 山珪士信考訂

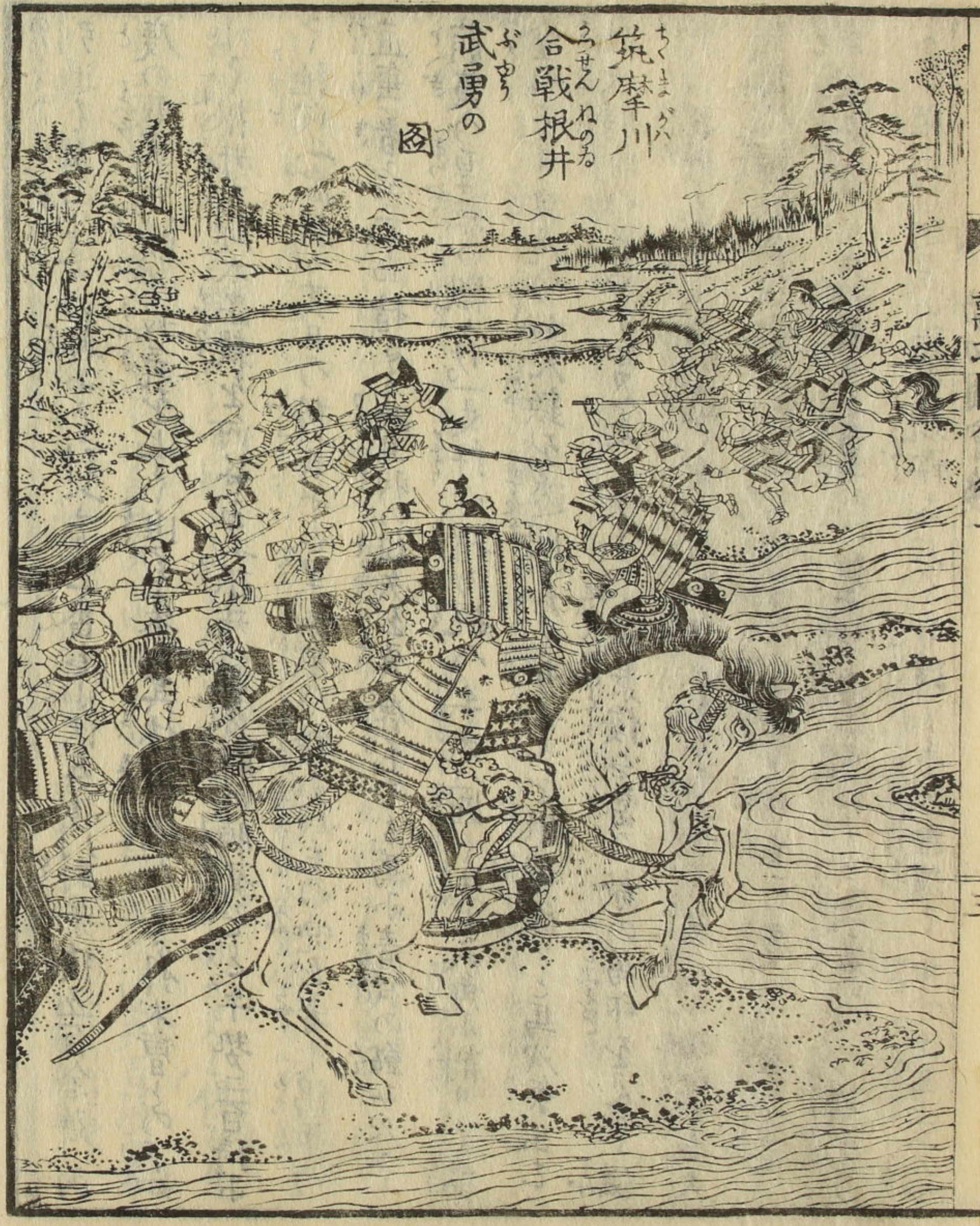
兵書曰丈夫兵絶道也故非計策無以决嫌疑編奇無以破奸息寇
 非陰謀無以成功之昔漢祖之與一由仁義之舉成焉之由是二乃者小於
 之不免所あり況末代小於を也。此木曾冠者義仲公二度高倉官の令旨
 成得より。天下の濁乱を除んと頼小義氣を憤發し。遂小旗を北陸道小
 翻し。手初小計を絶し。空原頼直が家城を攻取し。遠近之の智勇
 小伏し。攻さる小降し。招さる小従ひ。其勢以日成追々長大なりぬ。茲小於
 越後の守護職城太即資長平家の令を得。木曾成退治せんと既小
 四萬余騎乃大軍成列卒し。横田川に於出張し。敵の動靜成見せしむる
 小。十分の一の不足小勢なり。同報せし小より。大は是成悔り睡んじ。只
 一戦小蹴散さし。事ゆけ小思居り。河小木曾殿之緒軍小酒者成与へ

く十分を喫せし。扱亦仰多と。列位物敷なり。義仲が杖。平家の虐政
を糾さんとせし。其ハツも更なり。天下の幸福なり。これ由平家ハ世
成ら。廿余年。就中小松内府仁徳。普く四海小布施。これ今其人亡
し。其ハツも猶其恩沢を感。平氏の為小死力を竭さんと。其者も多し。べ
し。其ハツも。繼継の裡より。孤となり。漸く兼遠が情。都遠た木曾小
人と。かろし。ひ。普代恩顧の即黨。とも多なり。ねむ。平家小比。く。九牛
一毛の微勢。去る。あれ。前ゆ。の。軍ハ兵士の多寡。小限ら。ど。茲小一ツ
の。綸を。致。今一人の賊有。其身刑罰。小逢。死必死の身。なれ。死
を。途。決。白刃。揮。市中。行。小。市中。の大勢。是を捕。と。も。者。小
く。各島。の。視。狼。の。顧。小。言。小。逃。避。彼。為。小。害。せ。れ。と。せ。是。一
人の賊。と。勇。小。く。市中。の。多。勢。ハ。億。病。なり。小。あ。く。ど。賊。ハ。途。小。死。を。究。れ。恐
る。処。なり。市中。の。多。勢。と。死。を。究。れ。る。自然。銳。氣。な。り。これ。一。人。く

死を究むれ。今人を懼小足まり。今資永が勢ハ四万余騎。味方ハ繞小三千
余騎。敵小比。十分。之。ゆ。な。り。ど。味。方。悉。く。一。死。賊。と。な。り。向
く。何。の。怖。り。あ。ん。これ。を。途。小。死。を。心。軍。令。小。違。と。有。べ。予。昔。魏
の。文。侯。の。時。秦。より。五。十。万。の。勢。を。り。魏。の。西。河。を。侵。と。其。時。吳。起
弱。兵。五。万。を。り。是。小。當。也。大。小。勝。利。を。得。と。秦。軍。小。追。退。し。と。これ。即
吳。起。の。兵。の。勇。壯。と。秦。の。兵。の。柔。弱。を。小。あ。く。必。死。と。必。生。の。違。あ。れ。也
況。我。旗。下。の。人。々。皆。勇。壯。敵。小。十。倍。せ。り。衆。軍。心。を。一。致。せ。り。自。己。の。高。名。を。更
と。せ。と。一。死。賊。と。な。り。敵。小。當。ら。む。な。り。勝。利。を。得。と。之。因。り。明日。の。合
戦。を。衆。人。死。を。皆。く。敵。小。向。ひ。と。吳。く。由。教。示。せ。れ。と。各。大。小。勇
り。去。程。小。養。和。元。年。六。月。十。四。日。の。夜。も。一。以。て。明。り。と。源。平。の。兩。勢。備
を。押。出。し。時。小。城。太。郎。資。永。敵。陣。を。見。と。左右。を。顧。り。曰。憐。む。下。義。仲

由りて練叛を企あの小勢をわつて我猛軍小當らんとする更鷄印を以
て磐石を推し、蟠螂を各々揮り、車小向小異なり、維り先陣小進
と敵小泡吹と云ふにど、よこいま、終つるは瀨小平太と今日先陣賜ハ
らんと呼り、午の勢三百騎を一隊と、真先小押出と、木曾殿の陣より
是をみる、那和太郎廣澄、手勢百五十騎も、押出し、筑摩川を綱と涉り
兩陣互小因を合し、矢合の鏑射ちふる程とあり、各得物をあ揮り、
と寄合、曳々声々、歩合ひ、小平太が陣忽小切崩され、霧々と乱れ、木
の陣場へ引退く、那和と敵の首を得ると、七級半始と、悦勇と引
り、資永幼度の合戦を仕損、大に憤り、奥山推頭小令を傳、急死地
先敗の耻辱を雪だ、いと下知、これを推頭承り、子息横新太夫と、俱小是
も三百余騎、一各小押出と、木曾殿の御内小、塩田八郎高光、逞兵百騎を率
く奥山と向ひ合せ、丈水小成、操合、此度も木曾方、勝を取高、

引退を、奥山、這々の躰あくと引入り、三番と小伏左衛門尉景俊、五百余騎、兩
度の敗軍、成憤り、殺氣を上り進、来る、其体等、剛なり、木曾の、下知
と、根井大弥太忠親を向せ、根井は、是、暗の勝負と、午勢、二百騎小
と、弛向、忠親、其日、扮装、黒系威、鎧小、毛、兜を著、湯布、
直垂、著、二十四指、蹴鳥羽の征矢を、負、鹿毛、馬小、青貝の鞍、
萌黄、厚、総の鞆、一丈、許、楯の、棍、半、元、圓、先、八角、削り、
金、上、貝、尻、如、鉞、を、透、間、中、を、振、擔、徐々、と、馬、成、乗、出、
休、天、暗、剛、の、者、や、と、を、刀、え、り、小、沢、景、俊、と、當、り、敵、の、馬、印、を、
野、の、根、井、と、刀、を、れ、中、に、な、り、小、自、由、馬、を、系、出、を、景、俊、が、扮、装、と、大
荒、肉、乃、鎧、小、銀、の、三、日、月、乃、前、立、物、せ、二、枚、兜、を、猪、首、小、著、な、り、黄、純、子、の
甲、直、垂、著、り、廿、四、差、も、鶴、鳥、羽、の、征、矢、皆、高、小、負、り、三、所、後、の、弓、乃、握、太、
を、小、股、小、搔、込、黒、の、幼、小、鏡、鞍、あ、り、赤、袴、り、手、綱、搔、繰、り、歩、せ、出、馬、上、小、揖



筑摩川
合戦根井
武勇の
図

真田源次郎

云々、夫々、滋野の根井と、八ヶ所の御邊と、數代信列乃任
 人々、由、知、る、名、家、な、る、小、何、の、不、足、有、て、平、家、小、背、た、及、逆、不
 義、の、木、曾、を、技、す。家、乃、浪、滅、を、招、く、と、せ、る、や、と、鞍、坪、叩、く、呼、り、り、と、せ、る
 根、井、巨、口、公、用、之、呵、々、と、こ、こ、の、盜、路、が、大、き、孔、子、成、味、と、い、は、汝、が、更、よ、抑、平、族
 乃、暴、惡、虐、政、有、る、王、莽、董、卓、小、勝、り、と、天、地、人、も、小、是、成、怒、る。我、君、義
 仲、公、天、小、代、之、是、成、殊、戮、一、民、を、水、火、の、中、に、り、殺、す、と、い、は、汝、小、汝、亦、成、
 悟、ら、ん、と、い、は、平、賊、の、幕、下、小、属、と、い、は、天、命、を、承、け、ぬ、白、痴、漢、な、り。早、く、魂、を、脱、
 旗、を、卷、く、降、参、一、先、服、を、改、る、小、わ、ら、ん、と、い、は、忽、ち、白、刃、首、小、臨、む、五、昧、之、所
 々、乃、土、小、せ、ん、む、ら、む、と、い、は、厲、声、小、言、返、す、と、い、は、汝、小、汝、亦、成、怒、る、と、憎、死
 奴、の、惡、言、多、其、議、を、ら、ん、天、罰、の、一、箭、お、ひ、知、を、得、ん、と、い、は、弓、矢、と、つ、と、お、
 番、へ、後、へ、ひ、定、く、兵、と、放、つ、忠、親、お、ま、る、者、を、れ、を、些、も、驚、ま、む、と、お、來、る、矢、と、
 持、つ、棍、の、り、登、止、と、お、落、し、馬、小、一、拍、と、驚、出、す、と、小、伏、の、矢、を、射、損、し、早

く、二、乃、箭、成、番、切、く、放、つ。根、井、是、成、身、を、沈、く、避、疾、風、の、り、と、擊、く、蒐、
 々、根、井、が、牛、の、者、主、小、後、と、い、は、岡、成、造、く、蒐、進、む。小、沢、ハ、根、井、が、平、逆、く
 寄、く、お、ま、る、小、驚、た、弓、投、捨、く、太、刀、抜、拵、一、五、六、合、お、合、を、小、沢、が、即、堂、主
 を、討、せ、し、雲、霞、段、の、り、押、出、し、忠、親、小、お、ま、る、者、を、れ、を、些、も、驚、ま、む、と、お、來、る、矢、と、
 押、隔、ら、る、物、別、せ、し、忠、親、獅子、の、怒、成、見、一、件、の、棍、を、縦、横、小、揮、ま、く、敵、を
 討、つ、と、い、は、鉄、槌、を、以、つ、瓦、成、碎、が、と、一、眸、内、小、十、七、八、人、等、成、乱、せ、し、と、い、は、
 小、居、々、小、小、澤、が、牛、の、者、其、饒、勇、小、辟、易、し、色、め、れ、ま、る、と、い、は、忠、親
 得、し、と、い、は、味、方、成、顧、瀬、波、敵、ハ、浮、足、小、成、ま、る、と、い、は、此、機、を、絶、べ、と、追、ま、よ、と、呼、り
 自、ら、真、先、小、ま、る、雜、ま、る、王、如、斯、な、れ、と、士、卒、何、と、勇、ま、る、と、い、は、我、が、と、精、
 神、成、厲、し、殺、到、し、と、い、は、是、小、依、さ、る、多、勢、の、小、沢、が、勢、遂、小、足、場、を、ま、る、と、い、は、
 足、も、な、く、敗、走、し、と、い、は、景、俊、も、無、念、か、味、方、の、勢、小、引、ま、る、と、い、は、本、の、
 陣、引、く、と、い、は、根、井、と、敵、首、五、十、余、級、を、得、味、方、成、ま、る、と、い、は、徐、々、と、引、退、し、為、休

通無双の剛の者よと敵も味方も感入合たり

富部家俊被討西七郎條

去程小城太郎資永ハ已小三ヶ度ハ逼合小味方悉く敗れしを安らぐね
更小ナリハ此上ハ惣勢一度小押出敵を二戦小蹴散さんと敦圍々々成堂原
平吾大制し。義仲若冠なりといふも究く謀多た者ありハ先無謀の
戦を止む某敵成二當あく味方ハ氣を引立ハ危しと申ふより。資永怒を
抑て是成許しぬ。堂原悦ハ半勢二百騎の中少く勇壯なる殿等百十五
騎揮出し。整々と押出し。筑前川を颯と涉し。大音小呼り々々ハ當國の
人々或ハ縁体或ハ親族をれを新ふいふ及い。上野ハハ其余の緒列ハ
殿ハハ音小あ。以前ハ信濃國ハ任人なり。義仲ハ一河ハ新謀ハ
欺ハれ。家城を失ハ。今ハ浪人々々城太郎資永殿の旗下ハ屬し。堂原
平吾頼直ハ我更なり。我と思ハ者々来つ。雌雄を決せよと叫び

々々。是成は上野國高山堂物々々々。三百騎を一隊とて突と押
出。渡合一騎も余さ。と揉ぢり々々。堂原と源平ハ刃々前少々先
年ハ耻辱成雪んと申ふハ射き。斬りも更も。せと鋒を。ゆ
寄くと返。返。寄。入。替。千。變。万。化。小。攻。戰。兩。軍。ハ。馬。蹄。ハ。大。地。を
裏。蹴。立。る。砂。烟。と。白。日。成。曇。ら。も。許。む。い。も。房。ハ。刃。を。々々。高山堂
ハ二百騎。總九十三騎。小討。を。れ。叶。り。と。引。退。く。堂原ハ即ハ六十騎を
討。も。残。る。者。も。過。半。手。成。負。を。れ。も。全。く。勝。利。を。得。く。飲。然。々々。引。返。せ
む。資永ハ初々色を整。重。く。堂原ハ武功。を。賞。し。々々。茲。ハ。高。山。堂
堂。小。西。七。郎。廣。助。と。ハ。武。士。あり。々々。今。味。方。ハ。敗。戦。せ。茲。言。甲。斐。々々
ハ。手。の。者。百。四。五。十。騎。ハ。川。成。々々。平。家。の。陣。より。ハ。富。部。三
郎。家。俊。ハ。百。四。五。十。騎。ハ。出。兩。軍。近。々。寄。合。り。対。小。西。七。郎。馬
成。々々。鹿。と。カ。々々。あれ。を。白。小。蝶。鳥。逢。々々。鏡。直。垂。小。黑。系。威。ハ。甲。の。銀。の。裾。金

物少くは着下し、鉄形歩も月毛の甲の緒を締陣、太刀十字字小佩、
 一連錢韋毛馬小金覆輪の鞍置を跨りしを、廣助声然け、その敵將を
 誰と問、富部声小應、下り曰、是は信濃国任人小富部三郎家俊なり、さし
 和殿、維と七郎が曰、武名なるも音ゆめは、昔朱雀天皇の御宇、承平
 年中、鬼神と呼せし平親王、將門、我射落し、和漢小英、各成、東せし、儀
 後太秀、郷より八代、末、兼上野、国の任人、高山、堂、あさる者ありと、称れ、さ
 西七郎、廣助と、我より、家俊、なりと、我對手、小あま、と、早く引退、甲斐
 々々、死る者、出せ、と、嘲り、多、家俊、肚を、抱、大、小笑、ひ、汝、戦場、赴、
 成、先祖、の手柄、活せ、と、棄、出、る、其、儀、な、我、祖、先、の、武、名、成、説、
 我、祖、又、下、給、左、門、正、弘、鳥、羽、院、の、北面、小、召、れ、君、の、御、覺、芽、出、し、伯、父、左
 衛、門、太、丈、家、弘、保、元、の、乱、小、續、岐、院、の、御、味、方、小、參、比、類、を、死、勲、切、を、頭、
 也、其、金、帛、布、施、三、郎、維、俊、と、源、平、小、知、れ、る、剛、の、者、我、又、なり、所、詮、

又祖の高名、給ハッ、詮、益、を、由、を、死、戦、せ、し、り、来、つ、我、三
 合、成、合、さ、し、汝、武、勇、を、知、足、り、と、執、柄、及、小、朝、毒、し、れ、七、郎、大、小、腹、を、立
 憎、死、廣、言、其、舌、の、根、切、下、し、と、太、刀、抜、抜、し、菟、向、を、即、ホ、も、と、主、小、後、と
 殺、倒、を、富、部、が、兵、も、口、抜、連、く、迎、合、せ、追、つ、返、つ、戦、り、西、七、郎、何、卒、富、部
 と、組、一、騎、射、の、勝、負、せ、し、と、地、面、ま、互、の、家、子、即、黨、推、隔、々、々、戦、ふ、と、更、小
 其、便、を、得、と、独、心、を、焦、燥、り、斯、く、兩、勢、一、足、も、引、ど、或、ハ、射、ま、或、ハ、射、り、入、乱、々
 と、る、程、に、双、方、の、旗、指、も、射、落、れ、切、殺、れ、何、も、敵、何、も、味、方、も、命、死、乱
 軍、に、り、れ、西、七、郎、得、り、や、と、鎧、の、毛、は、み、り、知、つ、富、部、三、郎、が、傍、突、と
 菟、奇、押、並、く、無、手、と、組、家、俊、も、王、敵、を、れ、廣、助、が、鎧、の、上、帯、抵、ん、と、女、阿、ハ
 小、小、拾、合、し、互、小、鎧、踏、切、と、兩、馬、合、小、倒、と、落、上、小、かり、下、小、かり、右、手、ハ
 傳、び、左、手、傳、び、背、阿、と、勝、負、も、分、ら、ず、家、俊、衝、廣、助、を、取、り、抑、腰、刀、小
 手、成、挂、し、小、氣、早、の、七、郎、曳、下、し、ひ、く、剣、返、し、亦、家、俊、を、取、り、伏、終、首、を

と掻切かきき

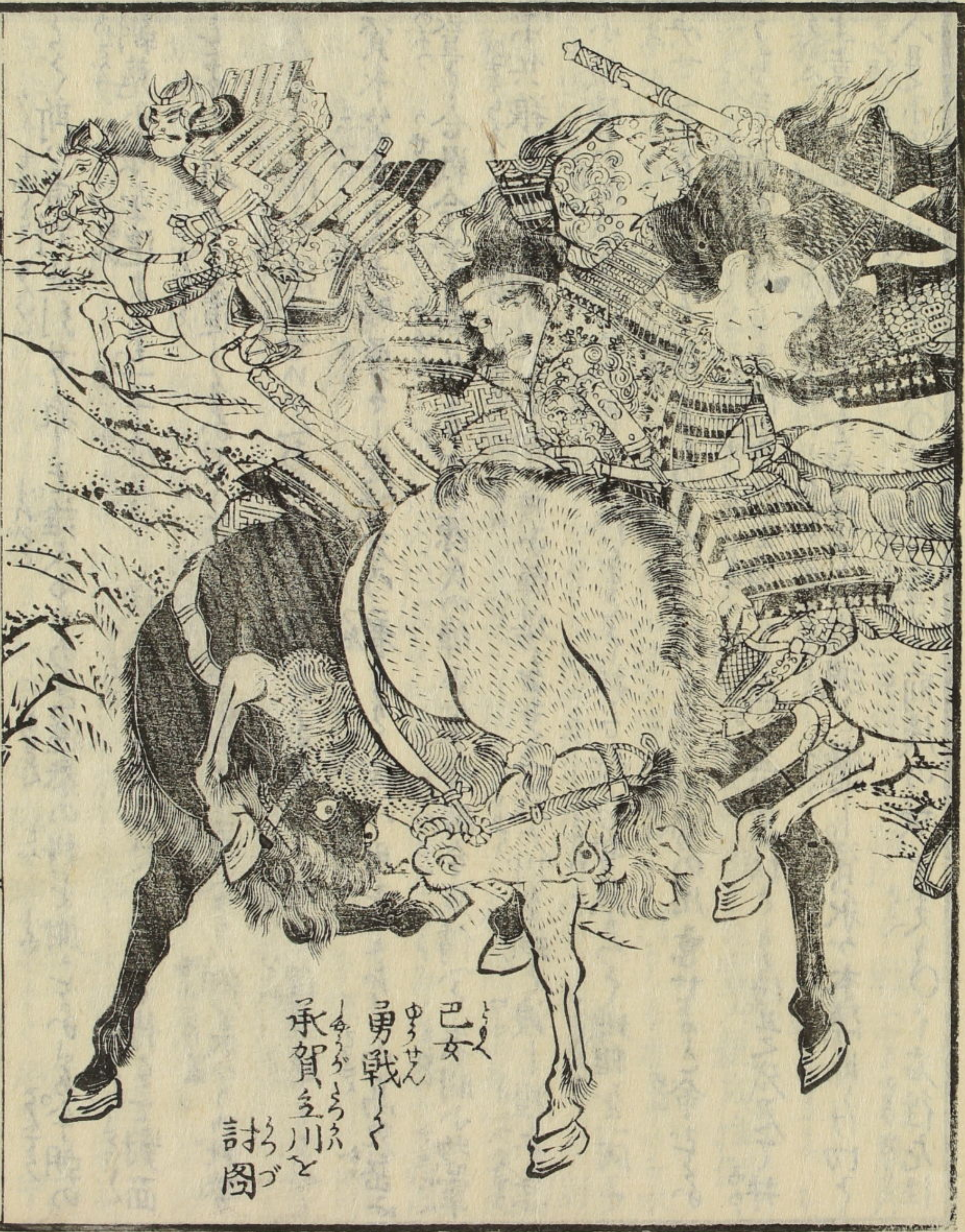
杵淵重光復主仇戦死條

茲こゝ小富部こぶべが即黨すなはち杵淵きふち小源太こげんたい重光じゆうこうとて者あり。朋輩ともだちの逸言いひかたふよら。家
俊いえとよ不貞ふせう蒙あまり。此度このたびの出陣いっしんも主まに隨後すうごもろもろ叶あはれ。徒ただに在あるは世よに
心憂こころうれふ。小富部こぶべの身みなりとも味方あじの勢いきほ小拵こしらえ好敵こうてきの首取くびとり
勅當しつたう射やの種たねふせんとて雜兵ざひやうの中なかに雜まじり在ある。維いりては富部とふべ三郎さんらう八西はにし
七郎しちらう小組こぐみ討うちまゝとて。大おほいなるはるる。萬行まんぎやうのるる。西七郎にしちらう八家はちけ俊とよが首くびとら
く鞍くらの取付とりつけ小結こむす付つけ已いふ引返ひきかへとて。休やすむれは杵淵きふち早はやく声こゑをうけ。其その御ご在ある
と西七郎にしちらうのく。八家はちけ俊とよ三郎さんらうが家録けにやく小拵こしらえ杵淵きふち小源太こげんたい重光じゆうこうとて
者ものなり。眼前がんぜん主まの仇あひを其その終しゆう小見こみ遁にとて。必かならず死しに絶たつ。一ひと太刀たち拵こしらへんとて。呼よび
七郎しちらう先せん魁けいのりの戦いくさに小身こみ体てい疲つかれ。戦いくさに心を。不ま足あふ。馬うまの鞭むちを加く
は。行過ゆりかへんとて。小源太こげんたい大おほいなる怒いかり。正ただに敵てきの拳動こぶしうごふとて。いひまゐ。是こゝに

小池付馬こいけつけうまの尾高おしだか拵こしらえ拵こしらえ。七郎しちらう已い更さらを不得えずく。振ふる反かへり。歩あひの
際きりかへも主まの仇あひを復たがへんとて。志こころのちや。一ひと命いのち助たすけ。猶なほもろもろ
百ひゃくとて。奇怪きがいなれ。主まの道みち小遣こぢとて。太刀たち拔ひき。て。萬まん
小源太こげんたい無な双じゆうの力ちからを。早はやく身み成なり。沈しづむ。馬うまの両脚りやうけつ拵こしらえ。曳ひき。と。い
列り及および。馬うまの尻しつ尾びを倒たと。横よこに倒たれ。主まの大地おほち。後あとに。七郎しちらうも
者ものも。足踏あしふみも。一ひと上ある。小源太こげんたい透とき。走はり。侍さむらいも。無な手てと。組ぐみ曳ひき。と
拵こしらえ。七郎しちらう心こころ矢や猛まう小逸こいつま。戦いくさに。気力きりから衰おとろへ。終しゆうに。小源太こげんたい小組こぐみ敷しき
首くび拵こしらえ。小源太こげんたい主まの首くび取とり。木きの根ねも。七郎しちらう首くび成なり。向むかひ
泣なく。其その身みも。一ひと点てんも。過あり。と。い。も。朋友ともだちの。逸言いひかたふよら。御ご不貞ふせう
此度このたびの隨後すうごも。後あとに。本意ほんいも。小推こおしえ。戦場せんじやうへ。出陣いっしんも。死敵してきの
首くびも。御ご不貞ふせうも。暗くらき。と。い。も。存ぞんじ。ひ。も。早はやく。御ご不貞ふせうも。残念ざんねんも
よ。され。も。當あたり。敵てきも。重光じゆうこうが。討うち。く。と。い。も。修羅しゆらの。忘仇わうきゆうを。暗くらき。安あん親しん浄じやう土つちへ

赴たれど、念佛十遍を唱へ、其辺に堀を掘り、其首を埋め、扱七郎が首
 取手小持廣助が馬小赤を奪ひ、杏小馳行大音小敵も親方も是れを富
 部三郎とのを討ち、西七郎廣助を家俊が即ち拵小源太重光がう
 ちり、王乃仇を報せしと叫り、西七郎が家子大乃怒り、十七八騎
 喜成及し、喚く、小源太を討つ、殺け、事なれど、只一騎を敵中
 へ割り、落花微塵、切廻り、敵七八騎切落し、五人小手小負せ、其身も
 討ち、小切まゝ、猶七郎が首を放し、抱く、死し、木曾どの
 此より、名まじく、矢も身ハケ様の即ち、持たれど、深く惜し、
 重光、青小太刀、刃を、手、鉄若子、添へ、彼が妻子、贈り遣し、
 多し。是れ依り、拵、縁、其仁徳、小感、皆木曾殿の身方、小赤り、
 資永敗軍、巴女武勇條
 斯く、其日、小逼合、日、西、傾、雨、陣、退、鉦、を、鳴、勢、
 軍、明日と定め、其夜、木曾殿、小信濃源氏乃内井上、即光
 基、忍、何、今日、小逼合、日、暮、敵、弱、其、深、所
 存、お、御、今、宵、の内、小紙、赤、旗、赤、旗、拵、明日、赤、明、送、乃
 川、下、より、敵、陣、向、頑、愚、資、永、必、定、後、馳、の、味、方、と、心得、油、断、有
 會、其、間、小、白、旗、白、符、小、取、替、不、急、小、敵、陣、斬、其、時、我、物、軍、前、進、
 南、北、より、狭、一、戦、小、敵、成、追、落、と、と、練、成、校、井、上、委、細
 領、掌、我、陣、小、返、り、火、急、小、赤、旗、赤、符、成、造、也、夜、深、小、
 勢、小、皇、名、堂、の、勢、を、合、せ、四、百、余、騎、杏、乃、川、下、陣、陣、明、る、遅、待、居、
 去、程、小、短、夜、乃、癖、早、東、雲、の、天、明、朝、風、涼、吹、出、せ、
 須、波、赤、符、各、用、意、の、赤、旗、多、押、互、甲、の、袖、小、赤、符、付、川、を、
 徐、々、城、太、郎、が、陣、向、小、平、家、付、侯、是、成、大、將、資、永、小、斯、と、報、
 味、方、と、心得、其、者、云、せ、何

軍、明日と定め、其夜、木曾殿、小信濃源氏乃内井上、即光
 基、忍、何、今日、小逼合、日、暮、敵、弱、其、深、所
 存、お、御、今、宵、の内、小紙、赤、旗、赤、旗、拵、明日、赤、明、送、乃
 川、下、より、敵、陣、向、頑、愚、資、永、必、定、後、馳、の、味、方、と、心得、油、断、有
 會、其、間、小、白、旗、白、符、小、取、替、不、急、小、敵、陣、斬、其、時、我、物、軍、前、進、
 南、北、より、狭、一、戦、小、敵、成、追、落、と、と、練、成、校、井、上、委、細
 領、掌、我、陣、小、返、り、火、急、小、赤、旗、赤、符、成、造、也、夜、深、小、
 勢、小、皇、名、堂、の、勢、を、合、せ、四、百、余、騎、杏、乃、川、下、陣、陣、明、る、遅、待、居、
 去、程、小、短、夜、乃、癖、早、東、雲、の、天、明、朝、風、涼、吹、出、せ、
 須、波、赤、符、各、用、意、の、赤、旗、多、押、互、甲、の、袖、小、赤、符、付、川、を、
 徐、々、城、太、郎、が、陣、向、小、平、家、付、侯、是、成、大、將、資、永、小、斯、と、報、
 味、方、と、心得、其、者、云、せ、何



勅初圖會後一

巴女
 勇戦
 承賀三川
 討罔



勅初圖會後一

とう斯く著到延引せられど誰人ものあき遅参の掛を謝とふよ今朝の
 朝鬼小敵を追まらる一手並見し後本陣(きまされい)きなくを得てと對面
 とまられと云遣し多ふ井上心可笑あかひかきそそく々々仰承り此勢
 成りつ敵小泡吹せしあのお御見物むふふ軍一と言く使成返しられど
 資永笑壺小入天晴勇々し味方著より何の用意もなく小高死岳よ
 登り合戦今やと眺居り河小源氏の陣小未曾殿令成傳(る)未明小物軍
 小兵粮を喫せ例の七手組一母小陣場をちま筑六川を颯と渡し短兵急
 小敵陣小向ひも資永亦小此体を見と扱と敵惣勢成りつ堆雄を二河小
 決せしとまらなまり彼一手のそゆく心かとなり加勢の用意せしと命むふ
 うち早敵軍ひつくと押寄陣を唾と上無二無三小切くうふ是は死刃を井
 上黨も急小赤旗赤符を解捨て白旗颯と靡し資永が本陣月け切と
 入是小依り城ヶ陣中以外の外小周障一前後の敵を支るの右往左往

小敗走と木曾方へ勝よまよ自来の勇壯百倍と踏はく戦中も根井
 権今井樋口の四天王列将分外の勇気見し八方弛廻つて力戦とつよよを
 資永が頼切し宗徒の者ども多く戦死し言甲斐が死軍親成推倒し
 子成突退く逃るゆ有る六道が死山路小追結られ討ちゆ有るま水
 小追込まき朽惜た各成流も有る幼四萬余騎と中まへも死つて解
 移のく散く歩捨し武具兵馬足踏途ゆなり死所々小幾許の岡
 成集た血ハ混々として筑六川の川波中紅葉成流と如かり茲小大将助
 永の馬廻りの勢五百騎むりやく敗走しま成木曾う七手組の女将巴女天
 暗資永が首成得てしと自余の敵小目をけむ資永う跡を追鬼たり
 城太郎即ホ立川二郎承賀十郎將軍三郎かどの者ども主成安く落
 さしと二百騎行まき引返し巴が勢小ら合大水も成く攻戦巴御前を
 生年十九才なる浪小村千鳥摺る紅井の甲袍も紫系も威せし甲

成者一金造の太刀十文字小佩なり。長なる黒髪の上は鉄の梨杵鳥帽
 子赤被た信濃黒の袴は紅井の鞆うけく赤袴リ銀の蛭巻。大長刀
 風車乃傳むる。因りて當に幸ひ小切く落と敵と是成女と不知
 童男の斯まぐ剛なる八月醒と舌成巻と怖合たり承賀十郎冷笑ひ童
 の分際し。大將軍成追なる不敵きよ。我手乃下小虜をまんと馬
 成ちく巴女小近付三尺五寸の野太刀成八相は振拂切く。此方より
 敵と刃々し。長刀把整し。往來し。お合更い。十合なり。憐
 ひ。承賀十郎細首宙お七は落され敢なく路頭の露と消ぬ。此回より
 三郎馬菟とせく巴女が左手組付成巴女。是成更とせ。左手成伸し。く
 三郎が甲の上帯掻抓。耶とひ。文二丈許投付。雑兵二人を
 倒し。立川と五膝碎く。死し。此勇壯小群易く。維一人近付者。由
 なく路を開く。通し。多む。巴敵中成無人郊野成往。く。突然馳抜

く前面を凡そむ。資永ハ早抜群小遊。影さふんえ。又引返
 敵成十方小近付。二級之首成鞍の前輪。結付木曾。本陣さ
 引退く。是成。人あ剛勇の丈人中。怖き者。者ハ。りりり
 木曾勢夜討通感賊軍條
 再脱木曾殿ハ二時の線界成り。大敵を追散し。勢成。高
 名成。緒軍小兵。遣各。扱仰る。資永敗走。く。本國引返。く。越
 後。置を再度旧好の士成。ハ。勢の付。ハ。治定。ハ。只此勢。ハ。越
 後。亂入。渠。居城。成。攻。拔。越。後。足。成。溜。さ。ぬ。を。勸。要。ハ。各。勇。を
 辞。せ。と。往。進。案。有。る。と。仰。と。小。より。勝。情。ハ。諸。軍。大。ハ。悦。以。引。續
 越。後。の。國。存。す。く。亂。入。を。按。の。く。資。永。自。國。よ。も。屍。を。居。る。て。妻。子
 眷。族。を。將。く。出。羽。の。國。逃。奔。し。金。沢。の。所。居。を。占。再。度。勢。成。集。先
 敗。の。耻。辱。を。雪。ん。と。企。む。板。木。曾。殿。ハ。越。後。の。國。府。小。陣。を。居。令。成。出。

乱妨成禁り民を安撫せしむるに當國の國人亦資永が因を切く我もく
 と味方と承る程小不日ふく越後も木曾殿の手ふへり去るのなきに越
 前國平泉寺の長史後明法師稻津新助越中國の野尻河上石里堂加
 賀國の富樫之族是迄猶平家志成通一々革由木曾殿の鋒先は恐怖
 各越後の國府と各侯一人貨を出し神文を呈し承り御味方と
 へ更を望むほど木曾殿神妙は思召列位引出物は信濃約一足げ下され
 ども今も難有項載しく面々自國へ入り入り今井四郎練と曰今夜明を始め
 其餘は徒心緘は飯降とふはいつと只御勢乃鏡氣を避くは夜も来り伏
 ころのこいれ然るは厚く降札を請御引出物と賜ると聊御思慮の浅
 りよいつとやと中されむ木曾殿微笑しあはれ我も彼未緘は降糸とふは非
 更ハとままり然るは偽ゆのあま飯降とふ者拒行とふとん義仲と
 と狐疑深た大将よと適誠は降糸の志ある者も志を通せとん

古人の貴成以て賤し下るる人成得所以なりとありよりや今夜明亦偽の降
 糸ゆのせよ徳を以て是れ及まじ遂小を心伏とせしと仰とあはれ兼平大い
 小慚愧し緘小君凡人ゆふりまさすとも其度量の廣さを感とる去
 程小城太郎公筑廣川の戦小敗績し本國越後と木曾小奪れとあ越都
 へ急成告る更櫛の齒を挽がとく平家ゆ入々大い小強死此上征將を差
 向く退治あるを中官亮通盛を大将とす其勢三萬余騎八月十六日小
 都越啓行し日九月四日越前國水津小着到と此皆先達と木曾方(史えんれハ
 根井大跡太を先陣と七手組の緒將越前(池向)対陣あるされも通盛ハ
 敵の機を量りゆく大急小も攻らんと日々足輕を出しと矢軍一墓をた合
 戦をとも遂と木曾殿は深く討し更あま程小あはれ日を送
 らる小ぞ平家ゆのて手剛た敵なりとも思ふ徒然なるも榎君白拍子と陣
 中(招を)昼夜酒宴游興小耽り十分怠慢を生下り木曾の問者よく探

更々馳回リ木曾殿小斯と報トれむ。其謀を行んとく加賀の國人林井上
 富樫の徒下知シ。云々々々敵の後を襲ひひと命せらる。列將領事手々
 面々一手々の勢を辛。家城を出る。登山林小伏夜道然多心々平家ウ陣
 小間道在所々小埋伏。相図然今やとお待々。木曾殿と加賀の國人已小敵
 の後(回)一と入ひひをむ。登より潛小枯柴燒草ウ用意。其首小細
 雨終日降暮。其を究竟ウ時節よと。初更小兵糧を喫。二更小少々。人
 牧を合と馬と曳。或縛リ。敵陣近々と押寄。俄小圍を弁。番手成定て攻入
 々。平軍強死強ぎ。須波夜討の入り。とと上登下と及。周障狼狽と。更
 大々々々々。大将通盛殊小恐怖。早落支度せらる。侍大将武藏有國
 上総忠光全弟悪七兵衛景清あんど。士卒成房。敵小當リ茲を途途と防
 戦と。其の夜中と。以俄ウ更なれ。何れ敵ウを味方と。多々々。これハ
 多々同士討。一。疵を。多々々。木曾方ハ相討相符少。味方同士を

ありとれと其煩ひなり。早陣々小柴枯草投け。火成。折ふ
 北風屬々吹。此処彼処より烈々と燃上リ。其光リ登り。々々々。平家
 とれ成カ小。小討伏彼処小切伏。サハひ。の分取高名成顯。一々。平家
 ハ火の手小倍。々々。死我先中と途を奪。落行程小。適耻成知。徒
 中引行味方小誘。れ。心々々。落。行此所々小埋伏。々々。林井上
 富樫が徒茲彼処より抄出。洛行敵成討程小。平軍々々。大の小討。大
 將通盛も矢痕ニヶ処負既小討。々々。忠先景清ホカ戦。敵成追散
 一。漸小救ひ出。終夜敗走。幸々。津苗賀の城小引籠。始三万騎
 と更々。或と討。或。落矢。々々。二千騎小と過。斯々。不討。私
 馬成り。都(急)を告。緩兵成。事頻なり。木曾殿ハ此度も十分乃勝利を
 得引續。敦賀(押寄)と議。せ。々々。忽ち越後より早馬到来。城
 太郎資永旧好の黨を催促。一。刺(出羽)国人若二。々々。先敗の耻辱を

清らんと既小出陣の用意頻かりと告るれど先資永伐亡し後
敷賀を攻勢しと。根井林井上茂平軍の抑しと水津小化させ木曾殿
と残る諸軍茂率と越後引返し向者茂りつと敵の模様を窺ふとむる小
資永逝き越後(乱入とふた)り下りばえとふより。木曾殿諸將茂集り既
小其軍配成とせしれたる

瑞洞声謀討使資永氣死餘

時小本曾殿諸勇士小仰るる資永羽列金津より當國(き)るふと路次
りしと嶮岨難渋の山坂多れを軍馬大の疲る登し兵書わの伏成りつて
旁を待としり。味方諸所小埋伏し敵の陣場をさる茂見火急小探する
か一挙小と追散とべしと。今井樋口捕囚三河巴の令小三百騎は茂授て
資永がききとる路次の山谷深林小埋伏せし。又越後の國人若千小謀と
授けし伴と資永小降らせ國府の城小旗物物女々をりえいと無

ゆき奮る財小見せしけ今や遅しと待しけぬと茲小能列吹木山の客僧小堪
慶坊とい山伏あり此者行徳(ま)まの更もあふれぬも生得音声大いし
と高く叫とた三里を隔てもはゆる程の厲色なりとれぬ。木曾殿百抱し
久く技知しぬれり諸人(い)是を何の爲やと日來不審居るる小本曾殿此
度彼山伏を潜小招れぬ今般(ま)を和僧茂用由命死時きこれ玉御坊資永
敗走しと落行山中の木小捕小在り如斯々々叫びぬと密々小謀を授ぬ
う。堪慶領掌しと其所も定めと出行り却説城太郎と舎弟城四郎
永用しとゆ小二千余騎ゆく。木曾越前在陣の番守を襲ひ越後を切返
しと。往小本曾が後小逼り平軍と交え伐んと羽列金津より越後へ起ふ小
敵軍の人もなく追々小國人も降を乞ふ既小四五百余騎小成をれぬ。大い小脱
び足場よれ所小陣をさし明日の國府の城を攻んとし其日八入馬を休め長途
の旁を掠ぎし兵糧を炊せたりとる処小忽然と四方小貝鐘の音震

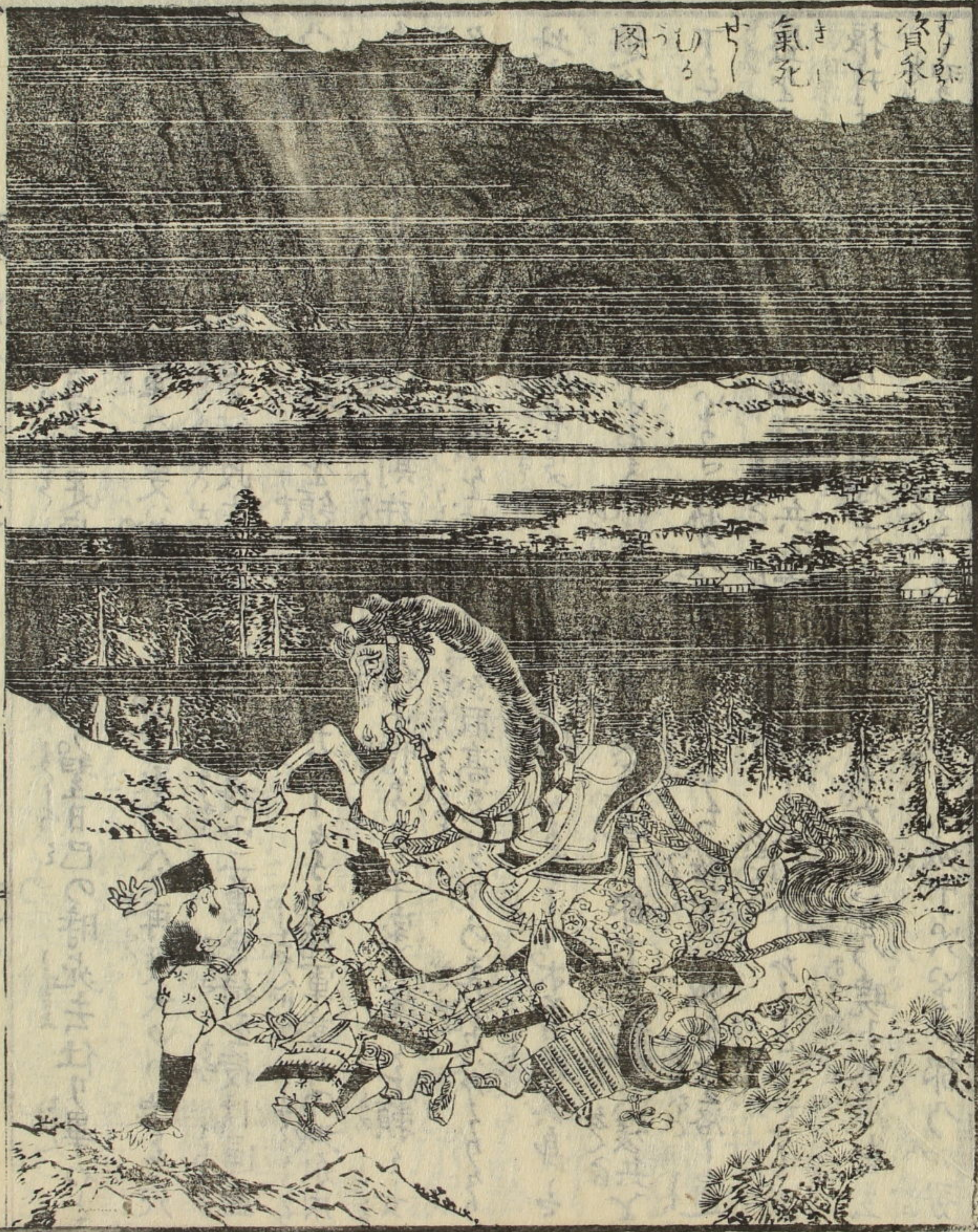
登一右より八今井四郎兼平三百騎左より八植の六郎三百騎前面より八巴
 御前三百騎各二夜小鯨波を合せ。三方より無二無三小切く入ふ。資永の勢
 仰天。是はとも何の面小寄多敵と。狼狽をうらうらへ。大刀よと。鬼く上を
 下へ。及一多の然。小昨今資永小降を乞多。國人も皆木曾殿の謀を受。こ
 多。心から裏切。く當る。我幸ひ小難廻る。是小依。資永兄弟再び後死
 叔を降。赤と。んせ。も敵の謀。ゆ。有。多。と。油断。が。せ。と。呼。る。ゆ。と。耻。を。知。り
 くる。黨。を。敵。を。防。ん。と。と。れ。ど。何。小。嶮。岨。を。越。く。人。も。馬。も。疲。る。上。兵。狼。狽。小
 喚。ま。れ。戦。小。気。力。が。く。只。途。を。奪。て。逃。く。と。と。る。者。を。う。り。中。も。墓。を。一。敵
 小。合。者。小。掃。り。り。り。資。永。兄。弟。も。心。弁。小。あ。せ。れ。ど。移。々。と。崩。三。一。小
 勢。の。時。れ。ん。足。並。が。立。整。と。て。中。も。け。刺。日。漸。々。小。暮。日。これ。弥。途。と
 失。ひ。僅。小。二。三。百。騎。ゆ。く。も。羽。列。を。き。く。敗。走。と。る。小。前。面。の。左。右。より
 再び鯨波奔り。半塚望月の兩將舊地直小討く。は。さ。る。た。が。小。長。途。の

旁の上戦の屈せ。資永が困兵。今と腕の脚も。瘡。景。勝。く。討。く。者。數。を。と。る
 とい。資永も。太。刀。痕。二。ヶ。処。矢。疵。一。ヶ。処。を。受。即。當。小。技。ら。喘。死。く。落。行。多。小
 忽。ち。虚。空。小。喘。涸。る。声。一。と。南。園。淳。提。智。證。大。師。の。建。立。あ。り。園。城。寺
 小。東。大。寺。戒。燒。金。銅。十。六。丈。乃。盧。遮。那。佛。成。滅。一。も。り。平。家。小。加。膽。人
 小。者。茲。小。在。を。召。捕。て。佛。野。天。對。を。打。ひ。と。せ。と。呼。り。り。其。声。雲
 小。響。れ。遠。近。の。谷。々。小。呀。一。と。冷。く。中。を。を。れ。資。永。肝。魂。も。身。小。添。む。忽。ち
 呼。し。叫。び。馬。と。下。り。逆。小。落。く。其。休。息。絶。小。る。永。用。も。り。即。亦。中。大。小。孩
 死。心。小。技。け。起。せ。と。早。息。切。れ。を。弥。周。障。一。死。を。馬。小。兼。操。小。も。ん。で。落
 行。々。小。今。ま。ぐ。資。永。小。後。ひ。も。士。卒。も。も。彼。怪。一。死。を。中。身。乃。毛。豎
 何。さ。る。平。家。乃。方。人。せ。を。終。小。と。神。佛。の。怒。小。觸。な。多。と。俄。小。志。を。喪。ト。く
 木。曾。殿。降。成。も。あり。ま。己。が。ま。ぐ。小。落。行。者。も。有。く。一。人。資。永。を。殺
 途。を。見。届。く。と。も。小。者。ハ。な。り。り。り。彼。虚。空。小。叫。び。一。色。山。伏。堪。慶。坊。あり

木曾殿の腹心の黨より外ハ知者さふなりたりかた例と昔も有るを
 彼森の孟嘗君が三千人の食客の中鶏の鳴音成りなと者あり其
 ふと女に能くあつたれど諸人は是を早も狂んト不用の漢ナリト
 然れども孟嘗君は之を顔一と猶彼士成技知一たれ小或時身の大
 事出来夜中俄小函谷関とて関を越んとせし此関曉の鶏鳴が
 ありて関門の鶏鳴が遠近の鶏是と
 門成関をよふに件の士鶏の音成りて敷色鳴りぬ遠近の鶏是と
 真の鶏の鳴ると心得一存小時成り告るは是小依り守関も夜
 明ると心得関門を閉ぢふより孟嘗君も從者も危急成免る
 存小喘息成り小喘息成り小喘息成り小喘息成り小喘息成り
 成得り是即ち木曾殿の山伏を技知一たれと喘息成り謀を用ひ
 資永小氣死せり緒卒の心を疑ひ惑へり小と月日の美譚なり
 但し此事源平盛衰紀平家物語ホ小実小虚空より叫び
 小書り緒書奉り神変不測の事も此類の事多し
 一

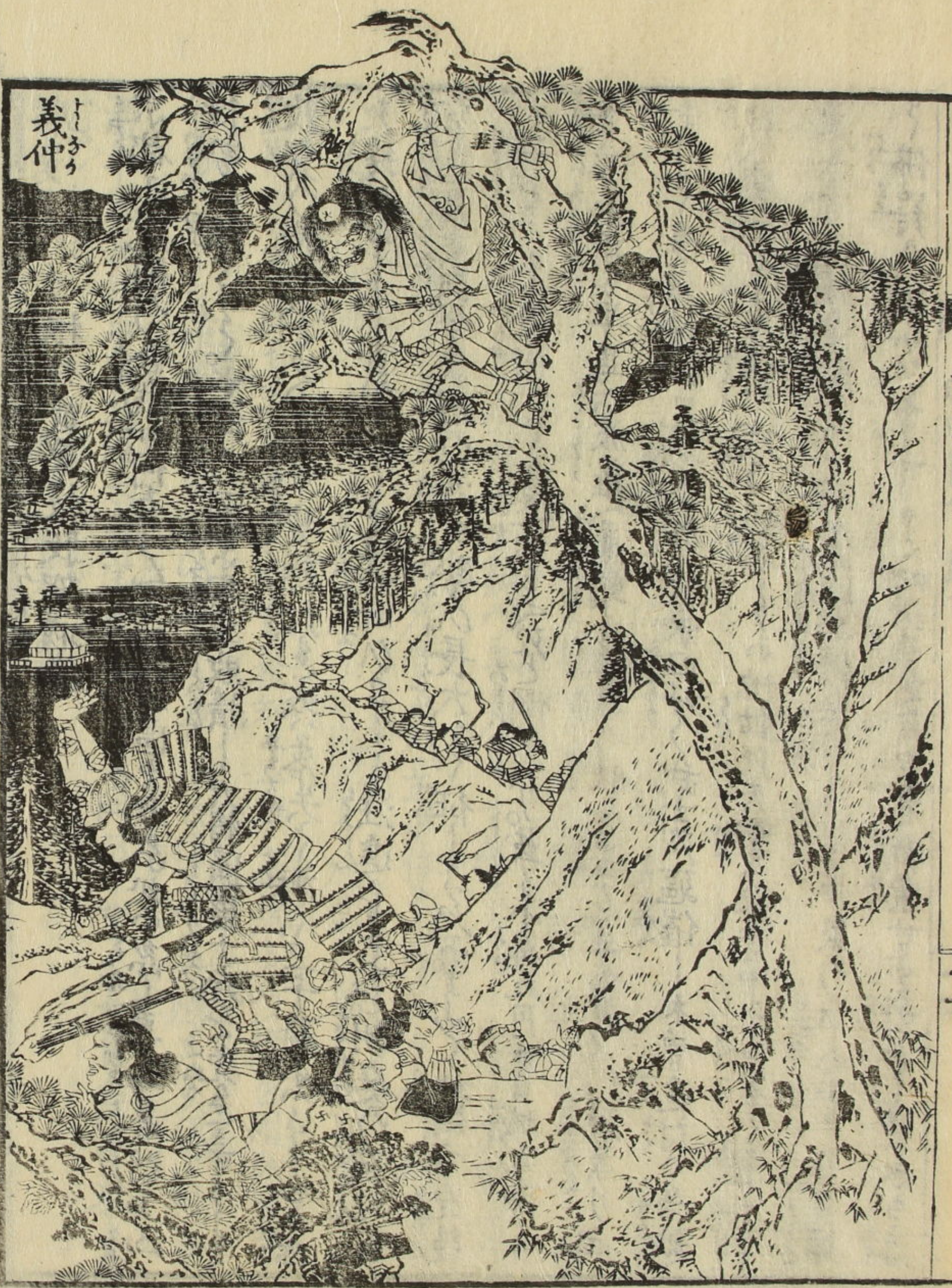
根井武勇拔敦賀城條

京都小北國の合戦如何あつと評議區々かふ処小忽ち
 早馬看到一凶徒勢ひ強く水津の一戦小官軍敗績一
 大将通盛十死を免る幸うて敦賀の城小入ると
 軍勢或討せ或落失く漸く三千騎小ハ急
 死緩兵を下し小むと籠城叶ひと注進とる
 朝庭の百司百官色然失ひ今東國の源氏勢ひ長大
 征へる小北國の兇徒如斯なむ
 奈何と退治とせんと惘惑へり然る小再九月廿日城
 太郎小舎弟永用が早馬六波羅へ看到一注進の状を呈と
 平家の一門弛集り用封し是成續小兄城太郎
 資永旧好の武士成驅催一木曾追討の爲越後
 奔向せし夜中成り刻むり小地動た天響
 食た雲中小声有る園城寺東大寺成焼
 金銅十六丈の盧遮那佛を亡し平家の
 万人小在召捕り佛對の程
 小せよと叫び是成史者戦栗せよ
 資永も落



資永 氣死 切

義仲



馬一忽大風病を受平足痺口舌剛り翌日巳の時死去仕り畢ねと
 流石不覺の敗軍の妻の載りたり。平家の人々再度大の舟を
 斯く不叶とく但馬守經政左馬頭行盛の兩将小二萬余騎を授け通盛
 加勢を領し。兩將此兵を領し。都を奔足し。諸軍勢の城永用
 注進のありむを泄す。斯許天地神佛の憎むる平家の運を頼む女
 其れとおあづと思ひ。小敵を伐平げ。取高名せし。義勢ありたり
 此音早くも木曾の問者。越後注進。木曾殿其身と
 越後小在。越前小ある根井が。軍使を遣し。都より敦賀。緩兵と
 下をよ。其のえあり。加勢の看到せし。敦賀の城を攻落し。通
 盛を追拂ひ。都の緩兵も空しく。半途より引及。下知せし
 根井其音承り。林井上富樫ホ。手筈定り。九月六日。曉小水津を
 翌日敦賀。押寄三方より曳。攻寄。城中。都の加勢

きく。小早敵の寄れ。大の周障。勢成緒方。命成限り。小
 防禦。追手の寄人根井大跡太。水火をも避る。剛の者。れ
 と更し。士卒公属。一番此手。攻破。下知。根井即
 堂内。十郎。平馬。とり。二人の。壮士。當城の。一番。諸人。睡を
 覺させ。廣言。攻付。當城。横箭射る。を要と。構。三方より
 雨雹と射下す。矢小中り。勇。兩人。一場の。塵と成。其後。續。根
 井が。勢。三十騎。一時。射殺。是。小氣。億。寄兵。綱。引。根
 井大。小怒。正。殿。退。我。一番。棄。馬
 野太。板。勢。奔馬。如。走。城。付。起。敵。前。切。拂。諸
 難。堀。破。躍。敵。三人。を。切。落。土。將。如。斯。後。卒。何。と
 猶豫。と。我。攻。付。城。兵。六。防。或。射。或。生。捉。ま

然も九條大納言有遠奉らるる孔雀明王の法を修む。其他諸山の碩徳も勅宣
 小依く北斗尊星延年大元年才隆天内法外法敷を盡し、執行の院の御
 所小五壇の法房寛前大僧正公隆三世昌雲前推僧正六軍茶利覚登權
 大僧都大威徳公顯前大僧正六金剛夜及澄憲新僧正六不動明王の法
 各丹誠を凝し行力盡し七宝の數珠も珍小碎ふと祈られ多ふ。
 扱す神祇官少く神饗あり、例幣然二十二社奉らせらる。且も朱雀
 院の御宇天慶年間小純友追討の御行の爲伊勢大神宮(甲冑)奉納有
 一例ふよせ。此度も東國北國の源氏殊伐の御行の爲鑊の甲冑を奉
 納ある。奉幣使八祭主中臣親親同子息神祇女副定隆兩人奉りて又子
 帝都を發足し。往々近江國甲賀の彈小着然る。小定隆俄心地例ふ
 らと悩階をれ。保艱を加(旁)ま。どん十五日小伊勢の離宮小着先
 仮屋小へ休息せし處。河小申の尅少く有る。天井より長一尺四五寸あり

なる小蛇落く定隆が虎の袖の上より下るるが頃、懐の中より小定隆ハ
 以むさうかち。又親能其他隨後の輩も大小怪とせらる。息小帯が解
 衣服を脱ぐ。蛇を捜せし。何地行の影も見え。各大小不審なれ
 ども途方なく妖を見。怪しまされ。其妖消し。木文あまを忘る。小
 ち不如く。酒宴を催し四方八方の難於をどし。六解の廻ふ。小順
 ひ各地の怪を忘る。二更の比小盃盤を収め。諸人小抗小就く旅の
 疲然休り。然る小其夜の丑の尅む。小定隆寐ながら最苦げ。か
 声なく喚た。又の親能何妻小やと刻起手燭をとり。定隆が外処小
 行。小ん小充恐ろし。定隆が咽小昼の小蛇卷着。締る。小定隆も
 早手足を張魚の息小かつ喘居り。親能な。孩さ。其後尻
 居小倒。難と悉き。叫ひ。此声小後者も。起り。追々地ま。こ
 小怖き。小ひかう。地をとり捨んとせ。只寺綱を。結。指

小つと此上八切捨とて、聞くうち、定隆と遂小勤殺され、蛇の自然解放
 まるゝ行方なり、なりぬ、忙然とて、夢現の竟を分る。湯薬を服せしめ
 医療手成書せ、定隆遂小獲生らむ。茲小於親能、忽ち觸穢乃身
 とかり、奉幣使を勤しむ。事急を、大官司祐成が汝汰と
 散位後五位有信を、次弟の神糸を、遂臨時の官幣成捧げ
 源家追討の祈禱を修せしむ。百人の神ハ非礼を受むとて、平
 家乃惡逆無道と天地神明も憎む。処を、太神宮何と源氏誅伐乃
 祈禱の祭成受め、定隆が變死ハ其兆なり。此事早、街小謳歌
 惡事千里を、帝都、帝都、君臣上下眉を、擧め、帝代乃珣
 事ハ危と、所ふ、山門より急使を、奏、當山乃阿
 闍梨覺算法印、日吉の社小大行事の床を、殺け、源氏調伏乃法を、修
 処弟二日月小勿心ち獲摩乃大燈、法印の衣小燈付、其依卷

狂、衣乃燃、小東西南北を、廻リ、白、帝王を、困
 め、萬民を、悩、平家小志、然、侍、世、治、生、靈、を、水、火、乃、中、より、救、へ、し、ま、し、る
 源氏を、調伏乃、獲摩、を、佛、法、守、護、の、緒、天、善、神、争、を、受、な、れ、ん、佛
 敵法敵乃平家の、徒、遠、く、な、る、乘、心、亡、と、て、其、手、始、小、此、僧、を、焼、殺、せ、ど
 自ら、身、死、自、り、或、ハ、高、く、躍、り、上、り、或、遠、く、飛、ぶ、虚、空、を、抓、り、七、顛、八、倒、し
 終、小、狂、死、し、と、松、小、朝、庭、乃、百、官、倍、せ、ら、れ、巴、小、神、仏、も、奇、持、と、見
 せ、ぬ、此、世、ハ、如、何、なり、行、支、や、と、安、ん、心、を、首、疾、く、頭、を、感、定、く、ひ、と
 め、合、只、薄、氷、を、踏、心、地、く、月、日、送、り、を、り
 義仲と頼朝確執條

去程、其、年、も、暮、る、再、永、二、年、小、カ、リ、多、免、角、世、乃、中、靜、か、ら、ど、東、國
 北國乃源氏勢ハ、弥、長、大、小、平、家、種、々、小、軍、儀、先、木、曾、を、征
 伐、と、其、催、一、頻、なり、然、る、不、側、乃、珣、事、を、出、来、小、其、故、と

ひを受通運うけとおとふ合あひの四よヶ國くにを切取きりとりし我鼻わがはなふけ飽あまぐ當家あたゝかを直下ちかま
 祭まつり奇怪きがいなり抑我家おさめがや八幡やちばん太た郎らうの全弟ぜんてい新羅しんら三さん郎らう義光ぎこうの嫡孫ちやくそんとく代よ
 々々甲列かうりつを領りやうしいまぐ人ひとの杖助ふたすけを受うけ嗟さ頼たのの食けを喰くりて我秘藏わひそうの娘むすめと以も
 清水冠者しみずのかむかざりが妻つまを遣つかきしつゝ世よに難がた有ありしゆれ小使こしやくの武威ぶいを漫まんト
 侍女婢しやくにひめ小使こしやく使つかしつゝ法外ほふがいの白痴漢ちやくたんなり好々よろよろかり子細こさいことあましく書状しよじやう
 成なりつゝ鎌倉かまくらの兵衛べいゑ佐頼朝さのちかが行ゆつゝ遣つかしつゝ木曾きそ義仲ぎせいのちゆう義先ぎせん年城ねんじやう太た郎らう
 資永すけなが小使こしやく勝かつトトを以も来こ加賀能登越かかのののちやう中越後なかつちごを弟あに従したがつつ勢いきまひを得えられ
 心こころ平家へいけも忠ちゆう心しん征せいトトやわかひえ右大臣うぢの宗盛むねなりの末すえの女むすめをりつゝ木曾きその
 嫡子ちやくし清水冠者しみずのかむかざり小使こしやく女むすめせんと言い送りしゆ義仲ぎせいのちゆう是こゝろに承引じやういんし内々うちうち和義わぎを綱つなト
 表あらわしつゝ平家追討へいけおしうたうのつゝ上洛じやうらくとて坂路さかぢト実まことと平家へいけと謀まうを合あし鎌倉殿かまくらどの
 を傾かたむしとの企くわありと專せんら言い觸ふし合あひ構かまり御油ごあぶら筋すぢをいふと絨じゆうトすふど
 絶たぎト々々たがたが原来もとより佐殿さどのと天性てんせい絶言たぎげんを好このむ癖くせある大将たいしやうをれむ大おほいふやうを

中なかつ小義仲こぎせいのちゆうが忌憎いみやうの心こころ出来いたる折せもあま彼不覚かのふかく人ひとの千郎ちやうらう行家けいけ八度はちだう々
 の合戦あひせん一度いちだうも仕出ししゆしつゝ事ことなれしゆ羊國やうくにの所領しよりやうしゆわ即堂ちやくたう小
 与よふる米銭こめせん小使こしやく支し支し一時いちじ佐殿さどの小使こしやく々々々々行家けいけ數度すうだう平家へいけと戈鋒かきを争まをひ家
 子こ即堂ちやくたう身みく失うしなひし被ひが供粮くわうりやうを管かりしゆ何國なんくにもあま二國にくにを
 賜たまはるしと惣そうとら佐殿さどの御ご々々々々中なかつ平家へいけ石橋山いしはしやま旗はたを上のぼし矢石やいし行馬ぎやうばの旁かたを
 怪あやし今いま已まし十餘じゆじゆヶ國くにを切取きりとりぬ木曾きそ義仲ぎせいのちゆうも一度いちだう憤ふん發はつしつゝ五ヶ國ごくにを後あとり貴
 迎むかひも自みづか力ちからたりつゝ何ヶ國なんくになりしゆ知し行ゆしゆ今いま予これ十餘じゆじゆヶ國くにを領りやうするし
 つゝ浪々なみの昔むかしより志こころ成なり運うんび忠戦ちゆうせん小使こしやく命いのち成なり絶たぎし堂だう成なりとて羊國やうくに二國にくにの主
 小使こしやく々々々々と思おもひしゆ五ヶ國ごくに十ヶ國じゆくにゆく中々なかつ不足ふそくなれしゆいづれ後賞ごせうの沙汰
 小使こしやく々々々々況いはや無功むこうの貴邊きへん小使こしやく進しんしつゝ地ち二郡にぐんもなれしゆと各おのふし行家けいけ赤
 面あかし退ひ出でしつゝ心こころ中大ちゆうだい小使こしやく佐殿さどのを怨うらみ即堂ちやくたう千騎せんきを隨したがへつゝ夜中よちゆう小使こしやく松
 田ら亭てい行家けいけの死し忍しのび出で越後ちごへおひむれ義仲ぎせいのちゆうを頼たのむ身を寄よせしつゝ何卒なんそく義

仲成怒激させ。頼朝を討せし先見の遺恨を晴さんと心の巧み。木曾殿
 小錫し〜や〜貴辺ハ〜知百どや。鎌倉の頼朝も〜自之の志あり
 と〜もの。東國の人心も〜平定せざれば。上洛〜平家を伐暇なし。然るも
 御身北陸道小義兵を上勢ハ破行つ〜。向〜延〜と降〜と〜な〜れど
 頼朝大の小當家の功を猜も。平家より先當家成倒さ〜と内々其催し有
 つ。処頃日や〜武田五郎信光書翰成りつ〜義仲と〜清水冠者成宗盛の
 婚せし〜と約定〜潜小鎌倉勢を向〜の結構あり。御油断いふと〜送
 し〜より。弥當國勢を差向〜と其用意頗かり。我是を練る〜といふも一
 圓承引をえれ。其無道を見限り當家成技〜参り急死不慮の備
 をを〜かへし天洋小懼〜れ。木曾殿大の小中〜急死諸士成招を
 集〜此事如何〜と評議ある。小樋口今井の輩〜鎌倉殿信光が
 總言を信〜當家を亡〜と〜勢を向〜と〜を〜。北方小其手當〜

む〜ハ叶〜急死熱坂山の切所小若を構〜防禦の備を〜と〜し小
 より。其刻小頃〜急小城廓成築〜宛鹿の兵万余騎を望〜守〜せ。尚も
 間者をりつ〜鎌倉の虚実を窺〜せら〜。此時〜鎌倉小八十即行家俄
 小手勢を卒〜逐電せりと同鏡〜佐殿も扱〜先見の義成意恨小
 ぬり野心を扱〜義成〜何國小移任せ〜探り〜と。諸方
 間者成〜探〜せら〜。越後〜越〜木曾小身成寄〜。回報し。義仲
 熱坂山城を構〜合戦の手當頻かりと告〜。根之信光が〜。義仲
 平家と合体〜予を亡〜と謀り。行家を由引寄〜。其義成〜ハ速
 小本曾成退治〜。十万余騎の猛勢をりつ〜信濃と上野の境白
 井坂〜出張ある。木曾ハ此吏を〜。弥防御示の備〜。嚴密を〜。須波源
 氏乃ハ士軍の始〜。緒人手小行を握り危〜。是只信光が總言と
 行家が忘言より事起〜。利口乃邦家を覆〜と〜ハ〜。吏成〜成〜

西源家和平赴清水冠者鎌倉條

茲小土井二郎実平の所勞小依く私宅小引籠居りて。此度の一件を
 大い小中ら死病残杖と曰井坂の陣かりひれ鎌倉殿を練言上りけ
 ろ。其借考へん小。木曾殿一旦高倉宮の令旨成得玉ひ殊小北陸宮を
 守傳く義兵を上強敵成瓦のぐく碎れ堅陣成席のぐく破り玉一身の平
 う平家小因を結び分心り小令旨成反古小一曰流の源氏を伐んとせしむべた
 恐くく平家より間謀の謀を用ひ味方小曰氏軍させく其弊小棄せん
 う。ハ信先行家ホが絶言のちを処りと思ひ抑君東國小義兵を起
 木曾殿北國小旌旗を上らま。俱小帝王のく萬民の爲小稿る平家と
 殊伐せん結構小いひむや。然る小其平家いひが亡滅さる小絶言及同成信
 小曰氏軍あくる小御賢慮の足さる小似たり。古語小曰兩虎争くと死ハ一虎
 小斃と二虎ハ傷く。捕師其弊小棄しと勞せと二虎を得とせり。今木曾

殿と當家と先成争ひ玉と二虎の争小似たり而く平家を捕雄と成
 くと小唾くと兩家を亡きととを奪し不如先應使者をのりく木曾殿
 乃所存を御使乳一有く弥野心小究る。其時雄雄存亡の一戦を遂
 玉小ハと理を盡しと凍れ佐殿稍女時黙然とと御座りたるが
 実平がや処衆く其理あまを漸小御得心ありと天野後内民部遠景と
 岡崎四郎義実と兩人を使者。別小安達新三郎清経を副使と
 木曾殿の許遣はる。二人君命成承り即黨女々列連越後小かりひれ
 斯と通ト多れ即時小城中小詰ト令木曾殿直小御對面ある天野遠景
 先中々大政入直清盛朝威を怪ト帝王を困りたり神社佛閣を焼拂
 小願る逆威小慕き源家は姓の輩小仰く世りく君乃く速小追討
 小とたし高倉宮の令旨法皇の院宣を下されり。然る小維々中夜を日小
 経る逆臣を伐震襟を休めたる死小當家小終る賢息清水殿を宗盛

の婿むこの中てり小ち幼ち定ぢやうありて、平家と心こゝろ合あひ鎌倉かまがら攻こう伐ばつありんととの止とどめありて
 同どう説せつありて新あらた宮みや十じゆ即すなは行家けいけ私ひそに遺い恨こんを拵たづね頼朝よりんちゆうを討うちんと逃にげ奔ほんしとて召まひ
 たとりて技わざ知ちりあつて二ふた定ぢやう頼朝よりんちゆうを尋たづねしとの結構けうかうありんと察さつし是こゝれ
 八や出陣しゅつじんし佐々木ささきの五ご絶ぜつ言げん及およ同どうの族しゆが巧たくまかしくも量りかりしれど應おう御所ごしよ存ぞんと
 承うけりて之これ既すでにとの君命きみのみことあつてと憚おそれなく嘆なげき去され木曾殿きそくどの完ま了りやう示しして
 討うちてむる表へ仲なかつ不ふ肖せうなりとて高たか倉くら宮みやの別わかれの令れい旨しを賜たまひりし依よりて微び
 勢せいなりとて北きた國くにの旗はたを雨あめに運うべしと早く五ごヶ國くにの王わうとをきり然しかる小何
 の不足ふそくありて忽たちち小宮こみやの令れい旨しを捨すて忍にん敵てきしと宗盛むねもり小因こいんを結むすび佐殿さどのの
 弓ゆみ奪うばへ是こゝは武田ぶたに信光のぶみつの女むすめをとりて思おも息いき清きよ水みづ冠かん者ものか妻つま室むろ小定こぢやうの事こと
 成なり望のぞみ来きりぬ云いふに手切てきりの反へん答たうし返かへししれど其その成なり遺い恨こんありしと迹あと
 形かたちなり忘わすれ鏡かがみを佐殿さどのへ送かりてとんえり侍さむらい叔しやく又また十じゆ郎らう行家けいけ吏しを鎌倉殿かまがらどのの
 さる意い越こえありともあつて只ただ任まかせ所ところを難あやし難あやし乃すなはちゆりゆり申まをすきしれぬと門かどの

好このい武ぶ門もんの情なさけ中なかつに留とど置まけり然しかる小世こよの同どう説せつ小こ鎌倉殿かまがらどの何なにの遺い
 恨こんとあつて以もつ義ぎ仲なかつを追お討うちせんと御勢ごせい揃そろ有ありて味方あじかたも其その手て當あたせ
 り佐殿さどの信光のぶみつが説せつ言げんを悟さとりて御勢ごせいを引ひきかゝ當あた方も態ま坂さか山やまの城しろを破やぶ
 却かへりて下したへ亦また向むかひて説せつ言げんを信まかし勢せいを差さし向むかはせり矢やの表おもて力ちからなり曰いはし軍い仕しるを
 一ひとと回まわ報うりしと仰おほせり同どう崎さき義実ぎじつ言げんを奉ほうりて八はつヶ御ご及およ答たうし其その理り御座ござ
 り去さりて愈い野の心こゝろなり小何こなにの公こう主しゆ君きみより二ふたヶ條じやうの所ところにまゐり其その一ひとヶ条じやうを
 十じゆ郎らう行家けいけ成なりて搦な捕とり鎌倉かまがらへ油あぶらをとりしとの義ぎ令れい今いま一ひとヶ条じやう八はつヶ清水殿しみづどのを宗盛むねもり
 の婿むこ小定こぢやうめをむとて頼朝よりんちゆうの壻むこと大姫おほひめの壻むことていとの義ぎ令れい今いま一ひとヶ条じやうを
 条じやうの内うち何なにもなかりとも御承ごせう列れつありて即すなはち小和こわと兵へいを及およしりとの君命きみのみこと
 小何こなにと相あひ迷まゆる木曾殿きそくどのの二ふたヶ条じやう乃すなはち御所ごしよ望のぞみなり退のりりて即すなはち御所ごしよ存ぞんと
 終すまり合あひ及およびしとて皆みな同どう休やすみ有ありてとて三さん士し成なり客きやく屋やありて重おもく饗かたむけ
 船ふね六むつ緒しよ士しを集あつめり右みぎ二ふたヶ条じやう乃すなはち所望しよぼう如何いかなりと問とひし小何こなに今いま井い樋ひ口くちハ

いふ御幼女乃御曹子心まね鎌倉へ争入貨小令御事あらん六十
 即殿を引渡し佐殿の不審成晴しとて海野小室乃徒と窮身懐
 入時捕師も是を不授とせり富家を頼と来ある新宮殿を渡し玉之ハ
 義小背多り道を十ま行家殿と君乃叔父なり御曹子君乃子なり子と
 貯ひ叔父を捨るハ匹夫も耻る処なり況君今平家乃罪を糾し玉之と義
 兵戎発し御身乃争う是をかり玉之やとて木曾殿又方乃論を皮む
 ひく御多る八列後乃所存俱一理ある元来此三ヶ条の所望と頼朝富家を
 見落さる難題をれ三ヶ条とも不叶旨及答しと有無二戦小及ハ安んれど
 も保元平治二度乃乱小源家親を殺し叔父を討とも身成利せしこと家
 不義乃徒乃をかりと世人朝り笑かると今又平家追討乃大事を問鎌倉
 勢と先を争うと他人の朝りを増道理を我忍の字を守り三ヶ条
 の内一ヶ条を承引せしれども海野小室乃のてり行家一無道人あもあ

予頼もきまてり情か鎌倉へ渡ると細く以上八冠者乃鎌倉へ渡
 とを登しとて呼出しと膝迎く招く後髪搔撫く汝を鎌倉の兵衛佐
 婿とせしむると長く生立行末ハ方乃大将となれよと仰多此清水
 とハ兼平が妹の腹小出生ありと當年十二才小なりと生得息明令利
 めく文学武藝を好むと長く承りいと答ふハ又逢なふ追乃
 遣物ふとて笠掛七番射てるをむひたり木曾殿御喜悦斜なくお叔冠
 者乃附人ハ雅成遣をたと仰とて海野入道西仙とて果が末子太郎
 行氏御曹子と同年小ハ彼成付人となし玉之りいと望たれ木曾殿
 御一と許しと西仙悦び潜小行氏を招く中々此度清水殿鎌倉の
 の艱子となり彼地へ赴れよと実人貨日前をれハ自茲御身小凶事有
 未だあむと汝御曹子と同年とて面負ま似たれ左も右もしく君の
 御命小替り清水殿を立浴しなれ是又小孝を盡小百倍一戦場ゆく戦

